大牟田市地域公共交通計画（案）に関する市民意見及び市の考え方

No.	頁	該当箇所	意見	市の考え	対応
1	P7-14 ～16	7章【事業1（継続）】 市内路線バス等、公共交通の確保	ゆめタウンやイオンモールへの人の移動を助けるために、ゆめタウン・イオンモールと共同運行の循環バスを運行すれば車のない・免許を返上した高齢者にも便利な交通機関となるだろう。	いただいたご意見は事業1の取組み内容（2）拠点間のアクセス確保に含まれておりますことから、今後具体的な検討を進めていく際の参考とさせていただきます。	原案のとおり
2	P7-19	7章【事業3（継続）】 交通手段間の連携	取組みのイメージ…とありますが、スクールバスを鉄道に振り替え（柳川→大牟田、荒尾→大牟田）、スクールバスが末端（中学校区から駅まで）を担う交通体系のあり方を求めます。通学で鉄道を利用する人も減っており、今後は鉄道の本数確保のためにも通学生の鉄道利用機会確保による利用者維持が必要です。 ※実現にはスクールバスの共同利用など学校間の調整やハードルがあるかもしれませんが、鉄道会社への本数維持の要望だけでは将来益々厳しい状況になる可能性もあります。提案に対する前向きな検討を求めます。	既存リソースの活用に向けては、様々な関係機関との調整が重要となります。特にスクールバスの活用については、近くに公共交通機関がない市内外の生徒の通学手段として運行されており、難しい面があるものと考えます。 いただいたご意見は、事業3の取組み内容（1）多様な交通手段の連携に含まれておりますことから、今後具体的な検討を進めていく際の参考とさせていただきます。	原案のとおり
3	P7-22 ～23	7章【事業6（継続）】 地域間公共交通サービスの確保	地域間公共交通サービスの確保とありますが、 （1）対福岡都市圏の移動に関する利便性の低下（近年の西鉄特急の急行化やJR快速の減便）に対する取り組みが入っていません。 （2）西鉄天神大牟田線複線化への活動が入っていません。 これらも重要な「地域間」公共交通サービスの確保の枠組みであり、含めるべきだと思います。地域間交通は隣接している市との問題だけではあり	都市圏への移動の利便性の低下はまちづくりにも影響があるものと考え、交通事業者に対し、これまでも強く要望を行なってきたところです。 いただいたご意見は事業6及び事業7（鉄道とバスの乗継ぎ利便性の向上）の施策を進めていく上で、今後、交通事業者等との協働により協議を行なう際の参考とさせていただきます。 また、西鉄天神大牟田線複線化への取組みは、事業9（利用促進に向けた活動実施や情報提供	原案のとおり

			ません。新聞報道もあるなど社会問題でもあり、この 2 点は含めるべきだと思います。	の充実）の利用促進の一部と捉えており、近隣市町と連携しながら継続した取り組みを進めてまいります。	
4	P7-24 ～25	7 章【事業 7（継続）】 鉄道とバス等の乗継利便性の向上	新大牟田駅周辺の駐車場を活用した P&R 促進支援に向けた検討・実施…とありますが、P&R 促進支援は大牟田駅や新栄町駅などでもすべきではないでしょうか。新大牟田駅の利用促進も大事ですが、在来線（JR 鹿児島線）と西鉄天神大牟田線に対する支援が今は置いていかれています。新大牟田駅の利用促進が対博多に偏っており、在来線の利便性低下の口実を与える結果となっています。また、JR の競合相手である西鉄も JR 鹿児島線の利便性低下に追随するかのように、利便性を落としても問題なし（例；特急が減って急行になる）という経営判断を招いています。	在来線（JR 鹿児島本線）と西鉄天神大牟田線に対する支援については、利用促進の取組みに加え、令和4年度には大牟田駅（JR、西鉄）と新大牟田駅間を結ぶ予約型乗合タクシーやシャトルバスの運行等を実施し、両駅間のみならず、西鉄新栄町駅付近の東新町バス停でも乗降できるなど、JRや西鉄の利便性の向上を図る取組みを行なってきたところです。 パークアンドライドの促進支援など、いただいたご意見は、事業 7 の取組み内容（3）に大牟田駅における検討・実施も含まれておりますことから、交通事業者との継続的な協議によるサービス確保・改善に向けて協議を行なう際の参考とさせていただきます。	原案のとおり
5	P7-26 ～27	7 章【事業 8（継続）】 観光施設へアクセスする公共交通の確保（施設アクセス・広域周遊）	観光施設へアクセスする公共交通の確保（施設アクセス・広域周遊）…とありますが、 （1）平日の西鉄の特急が急行となっていて、高速船との乗継が休日よりも 30 分早くなるなど利便性が不十分です。また、観光には不向きな転換シートではない車両が増えています。乗継の改善を図るとともに、観光利用が増えるよう転換シートの車両を増やしたり、関係自治体と連携して急行を特急に戻すなどの取り組みを求めます。 （2）レンタサイクル等の二次交通手段の検討は、	いただいたご意見は事業8の取組み内容（1）アクセス・周遊交通の導入の検討及び事業10（まちづくりにおける各施策との連携）の取組み内容（3）観光施策（観光列車等）との整合・連携に含まれておりますことから、今後、交通事業者等との協働により協議を進めていく上での参考とさせていただきます。 また、レンタサイクル等の二次交通手段の充実は重要なものと考えており、既存のサービスを活用するとともに、道路交通法の改正による電動キック	原案のとおり

			既存のサービス（サイクルトレインなど）の活用で十分ではないでしょうか。	ボードに係る規制緩和など、国等の動向を注視しながら、本市に合った手段の導入を検討してまいります。	
6	P7-26～27	7章【事業8（継続）】観光施設へアクセスする公共交通の確保（施設アクセス・広域周遊）	観光客の流れを把握する調査を行い、観光客が利用しやすい時間帯に観光スポットを循環するバス（一律料金を支払えば何回も乗降出来るもの）を運行するのも良いと思う（※外国の観光地ではよくある交通手段）。	いただいたご意見は事業8の取組み内容（1）アクセス・周遊交通の導入の検討に含まれておりますことから、今後、具体的な検討を進めていく際の参考とさせていただきます。	原案のとおり
7	P7-28～29	7章【事業9（継続）】利用促進に向けた活動実施や情報提供の充実	P7-24のP&R支援とも繋がりますが、鉄道利用者を増やすため大牟田駅の駐輪場を無料化を検討してほしいです。有料なことも鉄道利用を遠ざける要因なのではないでしょうか。人口が減っているのに周辺で駐輪場が有料なのは大牟田駅と新栄町駅ぐらいしかありません。大牟田駅クラスの都市規模や利用者の駅では無料のケースが多いです。駐輪場のスタッフも減らせますし、無料化することで駅前広場の放置自転車もなくなるはずです。	大牟田駅前においては、過去に放置自転車等の増加が救急車両や歩行者の通行を妨げるなど問題化したのを受け、駐輪場の整備や自転車放置禁止区域の指定などの対策を行なってきたところです。 鉄道の利用促進の重要性は認識しておりますが、駐輪場を無料化しましても放置自転車の監視等には人員が必要となるなど、これまでの経緯を踏まえましても、現段階における無料化は難しいものと考えております。	原案のとおり
8	P7-28～29	7章【事業9（継続）】利用促進に向けた活動実施や情報提供の充実	大牟田市公共交通デジタルスタンプラリーの実施について、大牟田市だけでなく周辺の市町と共同で行うともっと利用促進になると思います。	本事業の実施に当たっては、より効果的で魅力的なものとなるよう、周辺市町との連携も含め、検討を進めてまいります。	原案のとおり
9	P7-28～29	7章【事業9（継続）】利用促進に向けた活動実施や情報提供の充実	城島酒蔵開きの様に大牟田の主要な鉄道駅と特産品・特産物を販売する場所を送り迎え循環するバスがあれば、お酒などを飲みたい人たちにとっては観光しやすいと思う（※これには、大牟田の個性あるスポットの開発とブランディングが必要）。	いただいたご意見は事業8の取組み内容（1）アクセス・周遊交通の導入の検討に含まれておりますことから、今後、具体的な検討を進めていく際の参考とさせていただきます。	原案のとおり